

十二平・竜光 ビフォーアフター

2004～5年・2012年



大きく崩れた土砂が道路を超えて芋川をせき止め、川の水位が上がっている。

奥(上流)に見えるのは旧東竹沢小学校校舎

ここ十二平集落付近では中越地震によって各所で土砂災害が道路を寸断し、集落は孤立した。

青い橋は多聞田橋。突き当りにSOSの文字が見える。



その下流、十二平橋にもSOSの文字が書かれた。



翌年夏。川の中の様子。

電柱の並びは道路があったことを示す。

壊滅的な被害に遭った十二平集落の人たちは集団移転の道を選んだ。



十二平のビフォーアフター

川には砂防堰堤が造られ、崩れた斜面は緑になった。

周辺では田んぼも復旧した。持ち主は通いで耕作に訪れる。



こちらはさらに下流、魚野川と合流する竜光集落付近。
田んぼの稲は既に刈り取られている。
黄色の囲みは臨時の堰堤。川の中にブロックが積まれている。
竜光の人たちは荒廃した芋川上流から土石流や洪水が流れてくる
危険にさらされた。



橋の下には土石流や洪水を察知するためのセンサーが。

ワイヤーセンサー(赤囲み)・超音波式水位計(黄囲み)などを付けて監視が行われた。



湯沢砂防事務所では、雪の季節ギリギリに終えた東竹沢河道閉塞対策現場を案内した。



H17.10.17の砂防工事現場視察(多聞田橋から)

翌年は工事の進む様子を見ていただいた。



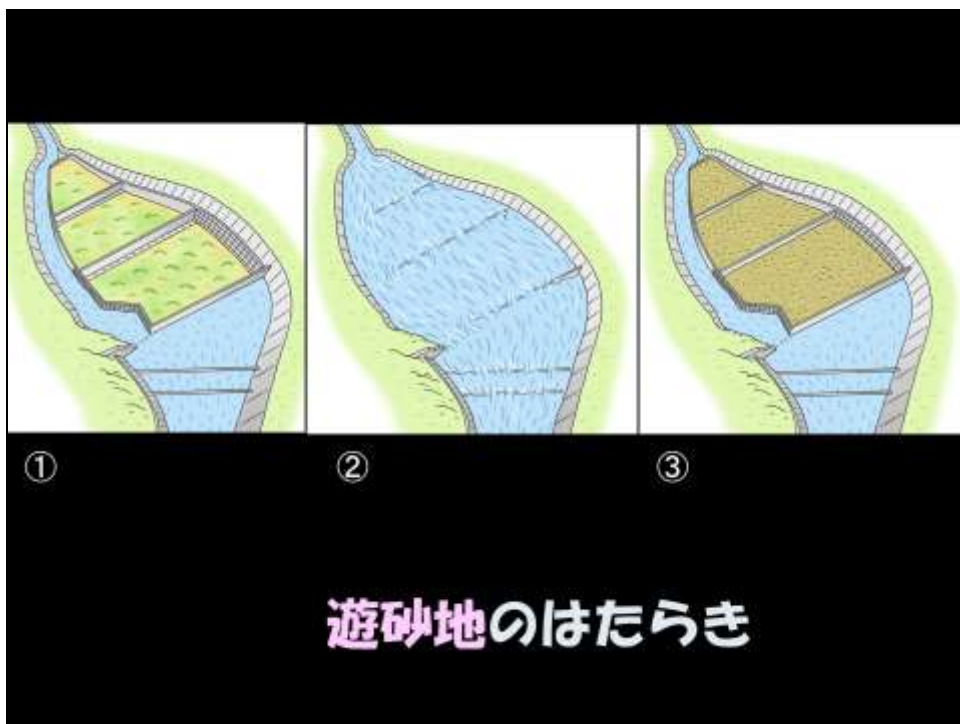
H18.7.23の視察

H18には完成間近の砂防施設を見ていただいた。
下は東竹沢、
上の現場は竜光遊砂地。集落を守る最下流の砦となる。



最下流の砦

竜光遊砂地付近のビフォーアフター



- ①遊砂地のはたらきは、まず、人命財産が集中する下流部に一気に土石流や洪水を 流下させないようにすること。
また、魚野川・信濃川へ細かい土砂が流れ出すことを防ぐ。
下流の川底に土砂がたまると、洪水氾濫のもとなる。
- ②大水が出ると広い部分に水が流れこみ、
- ③水の勢いを削いで土砂を堆積させる。